

タイトル		After the Fall: How Humpty Dumpty Got Back Up Again				
著者（文・絵）		Dan Santat				
出版年		2017	出版社	Andersen		
翻訳版		N/A				
総語数	375 語	ページ数	40 ページ	YL レベル	N/A	
あらすじ						
この作品の主人公はおなじみマザーグースのハンプティ・ダンプティ。ハンプティは趣味のバードウォッチングを楽しんでいたところ高い壁から落下してしまいます。九死に一生を得たものの、事故がもとで高所恐怖症になってしまい、好きだったバードウォッチングが楽しめなくなっていました。意気消沈するハンプティでしたが、代わりに紙飛行機の鳥を作ることを思い付き、試行錯誤の末、完成させます。ところが、調子よく紙飛行機を飛ばしていたら、あの高い壁の向こうまで飛んで行ってしまい... せっかく作った紙飛行機までなくしてしまい、くじけそうになりますが、ハンプティは気持ちを奮い立たせ、一步一步、階段を上がって、高い壁の上まで登っていきます。そしてハンプティはそれまでの自分に別れを告げ、新しく生まれ変わるのです。						
紹介						
ハンプティ・ダンプティは、ご存知のとおりマザーグースのわらべ唄に登場する卵のキャラクターで、卵が壁から落ちてしまうような危うい状況や取返しのつかないことを指しています。元となった詩ではハンプティはもとに戻りませんが、本作では落ちたあとの復活がテーマです。本作のハンプティは『鏡の国のアリス』に登場するハンプティのイメージとは一味違って、冴えないサラリーマンのようにも、無垢な少年のようにも見えます。どこにでもいるような平凡な主人公像ですが、壁から落ちた恐怖に向き合い、一步一步努力を重ね、落ちた卵として名を残すのではなく、落ちてもしち上がった卵として人の記憶に残りたいと願う姿を見ると応援せずにはいられません。そして最後に夢を叶えるのですが、その変化に読者はハッと、にっこりとポジティブな気持ちになること間違いなしです。 失敗したらどうするか、あきらめずに立ち直れと言うは易しですが、現実にはなかなか難しいものです。この作品のメッセージ自体は「壁を乗り越える勇気を持つ」という、とてもストレートなもので、「壁」も困難や人と人との断絶を示す、極めてわかりやすいメタファーです。そのため、誰が読んでも読後感が同じになってしまいそうですが、読み手がそれぞれの「壁」を想像すると幅が広がるでしょう。私にはハンプティが中年になったものの昔からの夢を叶えるために転職をしようか迷っている人のように読めました。昨今の日本は自己責任という呪縛にがんじがらめにされ、一度正社員の道から外れると貧困がすぐ目の前にある、失敗することが許されない社会になっているのではないのでしょうか。転職に限らず、何かを変えること、勇気をもって一歩踏み出すことの難しさをひし						

ひしと感じます。

また「壁」と言えば、トランプ政権がメキシコとの国境の壁を建設しようとしていることも思い出されます。2009年に村上春樹がエルサレム賞を受賞したとき、「高く、堅い壁と、それに当たって碎ける卵があれば、私は常に卵の側に立つ」と語ったスピーチも強烈な印象を残しています。村上の投げかけるメッセージはずっと複雑ですが、本作に加えて村上の英文スピーチも読み、各自「壁」や「卵」について考えてみるのもよい刺激になるのではないのでしょうか。

指導ポイント・授業活用例・学生の声など

【注意すべき英語表現ほか】

➤ マザーグースのわらべ唄

特に難しい表現はありませんが、the great fall や king's men など、この作品のもとになっているハンプティ・ダンプティのわらべ唄で使われている表現が出てくるので、もとの詩を確認しておきましょう。(Humpty Dumpty sat on a fall / Humpty Dumpty had a great fall / All the king's horses and all the king's men / Couldn't put Humpty together again.)

➤ 一人称の語り手

この物語はすべて主人公の一人語りです。そのためにハンプティの内面が直接伝わる感覚があります。

【授業活用例】

以下のようなテーマでディスカッション

- あなたにとって最も怖いこととは何ですか？ What is the most scary thing for you?
- 何か恐れていることはありますか？ What are you afraid of?
- あなたが得意とすること苦手とすることとは何ですか？ What are you good at or not good at?
- 大失敗をした思い出はありますか？ What is the biggest failure you have experienced?
- 失敗したり、うまくいかないことがあったとき、どんな風に気分転換をしていますか？ How did you cope with your failure? Do you have a formula to recover from feeling down after failure?
- あなたの夢は何ですか？ その夢をかなえる上で、あなたにとっての「壁」は何でしょう？ What is your dream? What are some difficulties you must overcome to make your dream come true?

なお、失敗に関する格言がたくさんあるので、それらを紹介し、最も心に響いた格言を選んで、それぞれ選んだ理由を述べるというようなアクティビティもよいでしょう。

- Our greatest glory is not in never failing, but in rising every time we fail. (Confucius / Emerson)
- I have not failed. I've just found 10,000 ways that won't work. (Thomas A. Edison)

- Success is not final, failure is not fatal; it is the courage to continue that counts. (Winston Churchill)
- If you are not failing every now and again, it's a sign that you are not doing anything innovative, (Woody Allen)

関連作品・参考 URL

作者 Dan Santat の作品に *The Adventures of Beekle: The Unimaginary Friend* (2014)があります。この作品は 2015 年にコールドコット賞を受賞しています。英米の子どもの作品には、imaginary friend (大人には見えない子どもの想像上の友達) がよく出てきますが、ここでは、まだ誰にも想像してもらえていない Beekle という“unimaginary friend”が人間の友達に巡り会うお話です。Shaun Tan の *The Lost Thing* (2002) (本 HP の解説を参照)にも通じるところのある作品です。

また、壁というテーマで、少しひねりのある作品に Jon Agee の *The Wall in the Middle of the Book* (2018)があります。主人公は鎧を着た若い兵士 (男の子) で、壁の向こうには恐ろしい怪物 ogre がいると信じていますが、そうこうしているうちに自分のいる壁の内側が危うくなり...というお話で、*After the Fall* と比較してみるのも面白いと思います。

- Jon Agee (2018). *The Wall in the Middle of the Book*. Dial Books.
- Dan Santat (2014). *The Adventures of Beekle: The Unimaginary Friend*. Little, Brown Books for Young Readers.
- Shaun Tan (2002). *The Lost Thing*. Lothian Children's Books.

備考

本稿の一部は大修館『英語教育』2019 年 10 月号 (Vol.68, No.7) の口絵「絵本を探しに」[7]の原稿を大幅に改訂したものです。

(文責：小林めぐみ)